

アリングを担い、橋梁などの道路構造物の保全に関する多様なニーズに迅速に対応していく。

品質確保策として同社は、現在本社に設置している「品質管理室」を東京と大阪の2支社にも設ける。10月をめぐりに新設する予定だ。品質管理の専門部署を拡充することで、各支社の案件でもデザイン・レビューや照査などを徹底させる。

決算説明会で船木健治社長は「受注拡大ではなく、収益性向上を目指す。積算精度を高め、過度な価格競争は徹底的に排除し、適正な対価で業務を受注していく」と強調した。

大日本コンサル 受注7割プロポで

全支社に支援組織

大日本コンサルタントは27日、東京都豊島区の本社で決算説明会を開き、今期（08年7月～09年6月）の経営方針を明らかにした。競争力の強化を重点施策に設定。拡大しているプロポ・ザル方式に対応するため、すべての支社にプロポの支援組織を設け、本社と連携し総合力・競争力を一段と高める。さらに品質管理体制強化の一環として、10月までに東京と大阪の2支社に品質管理の専門部署を新設し、デザイン・レビューや照査などを徹底的に実施していく。同社は今期、受注高注いでいく方針だ。

に占めるプロポ（随意契約を含む）の比率を70%（08年6月期実績60%弱）まで高める考えだ。同社は現在、営業利益率5%以上の実現に向けた3カ年（07年7月～10年6月）の中期経営計画を実行している。

経営計画の2年目となる今期は、「信頼の回復と向上」「競争力の強化」「収益性の向上」の3点を重点課題に据え施策を展開する。中でも社会ニーズや入札契約制度の變化に適切に対応し、市場シェアの拡大を図るため、競争力の強化に力を注いでいく方針だ。

、具体的には、プロポ方式の拡大に伴い、これまで本社、東京支社、大阪支社の3拠点に設置していた「プロポ・ザル支援室」を今年7月、すべての支社に設けた。プロポへの対応体制を充実させ、高度な技術提案の作成や優秀な技術者の育成を推し進める。

既存インフラを有効活用するニーズが高まる中、同社は4月に「保全エンジニアリング研究所」を設置。点検・調査から計測・モニタリング、解析・診断、補修検討・設計、維持管理計画策定までのトータル・エンジニア